

## 令和3年度第5回瑞穂町商工業振興推進協議会会議録

日時 令和4年2月25日(金) 午後6時45分から午後8時まで

場所 瑞穂町役場4階 全員協議会室

### 出席者

【会長】 松本 祐一

【副会長】 高水 英夫

【委員】 岡本 日吉、石原 浩一郎、布田 徳雄、佐藤 雅夫、江川 淳一  
海和 将也

欠席 中村 博隆

傍聴者 なし

### 配付資料

資料1 瑞穂町産業振興ビジョン（素案）及び工業振興計画（素案）に対する  
意見と町の考え

資料2 瑞穂町産業振興ビジョン（素案）

資料3 瑞穂町工業振興計画（素案）

### 1 開会

### 2 議題

(1) 瑞穂町産業振興ビジョン（素案）及び瑞穂町工業振興計画（素案）の意見  
募集結果について

松本会長 「(1) 瑞穂町産業振興ビジョン（素案）及び瑞穂町工業振興計画  
（素案）の意見募集結果について」事務局より説明をお願いいたし  
ます。

事務局 資料1について説明

松本会長 質問や意見等はございますか。全体で1件しかなかったというこ  
とですか。

事務局 はい、工業振興計画に対しての意見です。

松本会長 他にはございませんか。それでは、意見募集結果については以上といたします。

(2) 瑞穂町産業振興ビジョン（素案）及び瑞穂町工業振興計画（素案）答申案について

松本会長 続いて、「(2) 瑞穂町産業振興ビジョン（素案）及び瑞穂町工業振興計画（素案）答申案について」事務局より説明をお願いいたします。

事務局 資料2、3について説明

松本会長 前回でほぼ完成形となっていますので、小さな修正と答申方法についての説明をしていただきましたが、質問等はございますか。

佐藤委員 本計画は誰が誰に見せる文章なのかを確認したいと思います。10年前に前計画を策定した時も、誰の目にも触れられないままで、答申されていることさえ知られていませんでした。今回は前回とは違い具体的な行動が書かれていないものとなっていますが、計画が誰にも知られず、中小企業には声が届かないかもしれないという課題もあるようでは問題です。このままでは、本計画を実行する段階で、行政の担当者だけが大変な思いをするのではないかということが気がかりです。

松本会長 答申は町長に対して行いますが、計画をどのように周知していくかは大事なことです。事務局としては、それについての考え方や具体的な方法はありますか。

事務局 計画自体は難しいという印象があり、一般の方にとってわかりづらいものとして捉えられてしまうと思います。本計画は、行政や商工会、関係団体、金融機関、事業者等にも見ていただき、町のこれから目指していく方向性を示すものとなります。

佐藤委員 計画の中身としては取り組みの方向性しか書いてありませんので、それはそれで仕方ないと思います。行動パターンの記載しかないため、何か行動を起こさなければ意味のないものになってしまうのではないのでしょうか。また、具体的な行動の記載がほぼない中で、瑞穂町工業振興計画には「商工業振興推進協議会との連携をはかり」と「施策・取組の進捗状況や成果等を評価・検証し」ということだけは行動が明記されています。推進協議会はこれから10年間同じメンバーでやっていくのですか。計画は抽象的なものだと思いますが、「商工業振興推進協議会との連携をはかり、毎年度、施策・取組の進捗状況や成果等を評価・検証し、必要に応じて改善・見直しを行います。」の箇所だけは具体的な行動として記載されています。抽象的な計画に対しては評価のしようがないのではないのでしょうか。事務局策定するものは「ビジョン」であり、社会情勢も変わるため、具体的な施策を載せるべきではないと思います。方向性を示すことで、その時点でベストな事業を組んでいくことが望ましいのではないのでしょうか。

佐藤委員 それを推進協議会でチェックするのですか。

事務局 方向性に沿って行った事業を事務局から報告し、推進協議会で評価や助言をしていただき、修正を加えながら施策を達成していきたいと考えています。

佐藤委員 事業の実行前に相談を受けることもなく、実行後に評価をするようにということですか。

松本会長 取り組みの方向性が決まっており、それに基づきいろいろな事業が展開されるわけですが、前回の計画では事業まで記載されていました。今回は事業の記載がありませんが、計画に記載された方向性に基づき何かしらの事業が展開されていくと思います。推進協議会では、それら事業の内容や結果を見て、方向性にきちんと合っているかということと成果が出ているかをチェックするのではないのでしょうか。

- 佐藤委員 今の状態では、それはやってもやらなくてもいいのではないのでしょうか。チェックすることをはっきりと記載してしまうと、その時点での担当者が大変になってしまいますので、この辺はファジーにしておいたほうが良いと思います。
- 松本会長 ただ、チェック機能がないとそのままになってしまう可能性もあるため、それだけは避けたいということで評価することを入れたと思います。全てを実行することは無理であってもこれだけはやろうというような意見を言える場や人たちがいることが大事ではないのでしょうか。
- 佐藤委員 計画の文章としては行政が引っ張っていくという感じであったのが、評価していく推進協議会のメンバーが率先して進めていかなければならないといったイメージになってしまっています。
- 松本会長 商工会も本計画を見ながら施策を立てていくことになり、商工会がやること・町がやること・事業者自身がやることが決まってくると思います。
- 石原委員 今回の計画は「ビジョン」ということで抽象的になることは仕方のないことであり、ほんの数回の会議で具体的な行動を出すことは不可能です。この抽象的なものを10年かけてどれだけ実のあるものにするかが今後の課題です。  
重点項目として挙げられた抽象的なものをどう落とししていくかが推進協議会の最初の仕事とならざるを得ないと思います。それを実行した上で評価をし、情勢に応じて修正していかなければならないかもしれません。先のことはわからないので、体制だけはおき、その体制の中では計画で挙げられた重点項目をメインに進めていかなければならないのではないのでしょうか。  
計画をどれだけの人が見るかということについて、意見募集に対する応募が1件しかなかったことに驚きました。計画完成後は冊子を作成し、役場や図書館等の公共施設に置き町民の目に触れるようにするのでしょうが、手を伸ばして見てくれるかどうかは疑問です。それらの費用は他の予算に充てるほうが良いのではない

でしょうか。デジタル化を進めると言いつつアナログな冊子を作ることに整合性はあるのでしょうか。計画はホームページに載せるだけでいいと思いますが、見てもらえるかどうかは紙媒体でも電子媒体でも同じことだと思います。

岡本委員 「ビジョン」であるということで抽象的に作りあげたとしても、いずれかのタイミングで検証していく体制は必要であると思います。

また、ビジョンの中でも「観光」を取り上げていますが、これは目的意識を高く持てる内容であると思います。本計画は4月から実行に移されると思いますが、観光プロモーションとして何か具体的なものが出てきていますか。

松本会長 ビジョンに基づく目玉プロジェクトとして象徴的な事業や取り組み等があれば、新しくビジョンが動き出したという周知にもなると思います。次年度からの新しい取り組みがあれば紹介していただきたいと思います。

事務局 それではいくつかご紹介いたします。

「観光」については、瑞穂町は狭山丘陵や伝統文化等の今ある資源を活用して事業展開をしていくことを基本とします。新たな観光施設をつくる施策も1つの方法ですが、つくった当初だけしか人が来ないという所もあり慎重に考えていかなければなりません。町内の人にとっては何気なく暮らしている習慣や食べ物等も町外の人にとっては魅力的なものもあり、そういったものを発見し発信していこうと考えています。事業としては今までの考えを踏襲して進めていく予定です。

また、観光とプロモーションに特化して、令和4年度から現在の産業課が産業経済課となり、その中に「観光プロモーション係」が加わります。この組織を活用し、今ある資源を利用した観光事業を推進していきます。

プロモーションに関しては、ホームページはもちろんフィルムコミッション等をうまく活用し、瑞穂町がマスコミに露出していくことを目指したいと考えています。それにより町民の意識も高ま

り行政と一体となり町をプロモーションしていけるのではないのでしょうか。

さらに、昨年度誕生した公式キャラクター「みずほまる」も効果的に活用し、「みずほまる」のナンバープレートやランドセルカバーや着ぐるみの作成等をいろいろ仕掛けていきたいと思います。特産品もさらに充実させ、町の新たな顔づくりをしていく予定です。

松本会長 観光については専門の係ができるということですね。

佐藤委員 新しい係をつくっていただくことはありがたいのですが、何人くらいの配置を予定しているのでしょうか。一人二人ではとても厳しいと思います。

事務局 どこも人材不足で、何人付けることができるとはお約束できませんが、これまで特化した人員がいなかった中で、観光やプロモーションに対する係を新たに設けるということは町意思表示ですので、そのようにご理解いただければと思います。  
役所としては計画がないと仕事が進みません。また町の財源は厳しいため東京都や国からの補助金を得て実施していくことになり、それには都や国の計画と連携した町の計画を立てることが必要です。これからは、主役は事業者であり、住民は消費者、町はコーディネーターであるという役割をビジョンに明記したため、町民及び推進協議会にチェックしていただかなければなりません。町としても、産業振興ビジョンと工業振興計画は重要施策として捉えています。

松本会長 前計画には振り返りやチェックがなかったため、新計画をつくる際に初めてチェックすることになりました。新たな計画については方向転換をするなり、微修正をするなり、短いスパンで確認していかないと世の中の動きに付いていけません。役場や商工会だけではなく新しい人たちを巻き込むようなチャンスをつくっていかないといつまでも変わらないのではないのでしょうか。そして、そう

いった場をキープし続けることが大事であり、少なくとも10年後に同じことを言っていないようにしたいと思います。

石原委員 ビジョンの19ページの「観光の現状」に、けやき館や耕心館の入場者数が令和元年にかなり減ったとありますがなぜでしょうか。現状の資源を活用していくのであればそういった分析も必要であり、そこから課題が見つければそれに対処していけばいいと思います。これは素案をいかに生かしていくかということにもなります。

事務局 けやき館は開館から入場者数が増加しており、これは都内でも全国的に見ても珍しい施設です。令和元年度は、コロナのために集客力のある「つるし飾り」が中止になってしまったことが入館者数の減少に影響していると思われます。

石原委員 これは町外からの移動が制限されたことが原因であると判断されたわけですね。

事務局 マスコミにも取り上げられるようなイベントですが、令和元年度は開始後すぐに中止となってしまいました。

江川委員 耕心館で手伝いをしていますが、つるし飾りの展示の際には船橋などの遠方や東久留米などの都内からも来場していました。これを観光の目玉にすることによりそれなりの集客力を持つと思われます。この他にもいろいろなイベントを行っていますが、コロナのために人数を制限しなければなりません。今は指定管理制度で運営されていますが、熱心な方が多いので期待できそうです。

松本会長 おそらくコロナの影響を直接受けているということになると思いますが、今後集客を回復できるかどうかが問題です。

石原委員 それ以上のことはわかりませんが、令和元年はまだ新型コロナウイルスの感染拡大が始まった頃ですね。

江川委員 例えば100人集客があったところを、30人に落としたままずっと続いているような状態です。

- 石原委員 通常はつるし飾りには2万人くらいの集客力があるということですね。
- 江川委員 つるし飾りだけでもそれくらいの集客はできるようです。
- 石原委員 落ち込んでしまった集客数をV字回復できるかどうかは微妙で、マスコミ等で取り上げてもらえるようなアクションを起こしていければいいと思います。
- 佐藤委員 年号は合っていますか。1年ずれていませんか。
- 事務局 これは「年度」で示しています。つるし飾りは2月のイベントですので、まともにコロナの影響を受け閉鎖していました。
- 石原委員 その時閉鎖しても、4万人くらいは来てくれたということですね。
- 事務局 それ以前に多く来てくれたということです。いろいろなイベントを行っているため、臨時休館がなく入場者制限がなければ当時はそれくらいの入場者はいました。
- 石原委員 コロナのことを言っても仕方がなく、つるし飾りに集客力があるならば、6万7万の集客数をさらに7万8万にしていくにはどうしたらいいかを考えていかなければなりません。
- 高水副会長 耕心館にしろ、つるし飾りにしろ、事業規模からいけば6万人来れば立派なものです。町としてもっと考えなくてはいけないのは、初めから多くの人を集客することを前提に計画し来客者がさらに人を呼んでくるようなものをつくっていくということです。そして宣伝をどれだけするかが重要ですが、そのための予算を捻出しなければなりません。都や国から補助を受け、事業者から寄付を募り、中途半端ではないものをつくっていかなくてはなりません。他市町村には負けないという気持ちでやっていかなくては集客などできないと思います。
- 布田委員 耕心館でここ7、8年販売を行っていますが、リピーターが多いようです。町内よりも町外からの方のほうが多く、毎年同じ人が必ず

来られます。作るものも干支を変えているので毎年違い、本当に観光の目玉になっています。ただ、もう少しそれをアピールする方法があれば、まだまだ伸びしろがあると思います。

高水副会長 つるし飾りは19名の方が作っているようですが、各町内で競い合うとかいろいろな団体に参加してもらうようにすれば、もっと町全体として盛り上がるのではないのでしょうか。

江川委員 意外と町民はおいでになりません。あまり認知されていないようです。

石原委員 平成30年度の入場者数は67,000人なので、町の人が2回行っているということになりますが、町の人ほとんど行ってはいないということですね。その時あった集客力をいかに生かすかという発想が大事であると思います。箱物にはお金がかかりますが知恵にはかかりません。次年度以降はそういったことを詰めていけばこのビジョン自体は十分に役に立つと思います。

江川委員 1つ1つがアイデアの積み重ねですね。

松本会長 今行っている議論がまさにそうです。＜観光はどうするか⇒つるし飾りや耕心館が強み⇒でも予算が無い⇒皆で飾りを作ろう＞といったようなプロセスを話し合う場があれば、このビジョンは1つの軸として生きると思います。そういう議論ができる場をつくり続けることが大事です。

江川委員 ビジョンの52ページに「女性」や「若者」「障がいのある方」という表現がありますが、LGBTQのことも考慮するという事で、巷でよく言われる「多様性」や「ダイバーシティ」等についても記載しておいたほうが良いのではないのでしょうか。10年後に見た時、そのようなことを意識していたことがわかると思います。

松本会長 その部分は表記を工夫していただきたいと思います。では、答申書については以上といたします。

### 3 閉会

松本会長      これをもちまして、第5回瑞穂町商工業振興推進協議会を終了いたします。コロナ禍の中、毎回お集まりいただきありがとうございました。本日の協議で終わるということではなく、これからも推進協議会としては本計画が実行に移された後も注視しながらいろいろな知恵を集める場にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。